ゆうことみゆきの
なるほど
アイヌ文化エッセイ

ソンコ de ソンコ

Vol.138

アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。

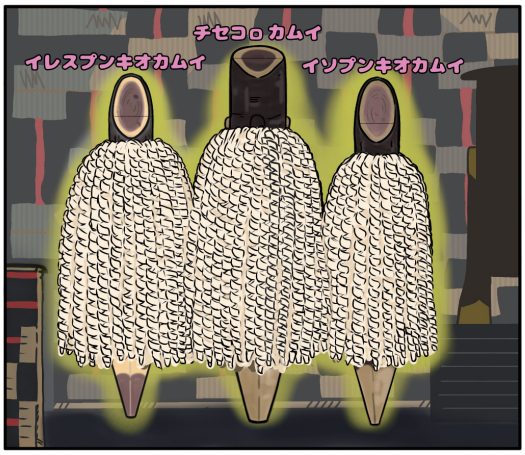
今月のテーマ

チセコロカムイ(家の守り神)

村木美幸(アイヌ民族文化財団常勤理事)

一九九一年、旧アイヌ民族博物館でおこなったチセコロカムイ(家の守り神)の送り儀礼に参加しました。この儀礼は、チセコロクル(家主)を担っていた方が亡くなった時に実施されるもので、チセコロクルが亡くなると、チセコロカムイの務めが無くなるので、カムイモシリ(神の国)に送り帰すというもの。静内の葛野辰次郎エカシ(古老)に儀礼の細部までご指導をいただきました。カムイノミ(神への祈り)に興味津々で見学に行った私は、人手が足りないという事でエカシの声の記録担当に。要領も掴めず、エカシの周りをチョロチョロしていた記憶がありますが、しっかりと録音されていたのでミッションは成功でした。

チセコロカムイは新築の際に、チセコロクルの守護神として祀られ、その家で暮らす人々が健康で幸せであるよう見守るカムイ。地域により違いはありますが、白老では家の上手にあるイヨイキリ(宝壇)に、イレスプンキオカムイ(子育ての守り神)、イソプンキオカムイ(漁猟の守り神)の三神で祀られてきました。



イラスト/山丸ケニ

チセコロカムイの材には、イヌエンジュやハシドイの木材が使われます。直径七チセン、高さ八十チセン程で、表皮を付けたまま上部を平らに、足の部分は尖らせるように削ります。木の側面を下に向かって削ぐように刃物を入れ、ラプ(翼)のような削りを段違いに二翼ずつ三段、六つのラプを付けます。ラプの間にはカムイサンペ(神の心臓)として、アペフッチカムイ(火の神)の燠(おき)をいただいて消炭(けしずみ)を作り、キケ(削り掛け)で包んで挟みます。カムイの着物には、鉢巻となるキケを二重に結び、それに着物となるキケを等間隔で挟み込み、キケの帯を結び、その上からまたキケを挟んでいきます。これを葛野エカシは「イワン コソンテ アエクッコロ(六枚の小袖に帯をする)という言葉を使うの。六つの着物を着て帯をするの。その上からまた六つの着物を着て帯をするということ。」と教えてくれました。大祭がある毎に新しい着物となるキケが挟み込まれます。

チセコロカムイができあがるとカムイプヤラ(神窓)から屋内に入れ、炉に立ててアペフッチカムイとの対面をしてからイヨイキリに祀られます。これも、チセコロカムイとアペフッチカムイが協力してその家を守る、夫婦神と言われる所以でしょう。 J

次回のテーマは「ニウォク(占い)」
本田優子(札幌大学教授)が担当します。

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間
JR白老駅から徒歩約10分

ウポポイPRキャラクター
「トゥレッポん」

イランカラプテ
「こんにちは」からはじめよう。

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団常勤理事。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。